

科目名	生理学		英文表記	Physiology		2017年2月27日	
科目コード	4409						
教員名: 大野 良和						作成	
技術職員名:							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
生物資源工学科	4年	必	学修	2単位	講義	前期	
科目目標 【MCC目標】	技術者に必要とされるライフサイエンス・アースサイエンスの基礎知識を有し、生物工学分野に応用できる。基本的な生理学、特に動物に関する生理学の知識を持つ。生体の恒常性を維持するための仕組みを理解している。 全ての授業にMCC目標 V-E-6, V-E-7, VIII-A・B・Cが当てはまる。						
総合評価	中間テスト(30)と期末テストの点数(40)と、小テストの点数(30)で評価し、合計60%以上を合格とする。						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	40%	①	生理学の基礎知識を身につける。	生理学的な観点から、身体の持つ調節メカニズムと細胞内外の情報伝達の仕組みを理解し、記述式試験で評価する。	生理学的な仕組みを認識できる。特に、動物の生体調節機構と多細胞細胞システムを理解し、理論的に考察ができる。	動物に備わる生理学的調節機構を認識できる。そのシステムが生体内でどのような機能と機構を持っているか把握できる。	動物に備わる生理学的調節機構を認識できる。
	30%	②	生命・生理を理解するうえで、動物のからだにおける細胞の仕組みを理解する。	動物の生体内において、細胞の種々の調節機能を理解できる。細胞が担うそれぞれの役割を理解しているか、記述式試験で評価する。	動物の生体内において、細胞の種々の調節機能を理解できる。細胞が担うそれぞれの役割を理解しているか、その生理調節機能の多様性に関して理論的	動物の生体内において細胞の種々の調節機能を理解し、細胞が担うそれぞれの役割を理解している。	細胞の種々の調節機能を理解できる。
30%	③	各組織器官の機能を理解する。	生体内で様々な調節機構が機能していることを理解できる。それぞれが担う役割を理解しているか、記述式試験で評価する。	動物の生体内において種々の調節機構を理解し、理論的な考察ができる。	動物の生体内において、種々の調節機構が機能していることを理解できる。	動物のからだにおける生理調節機能が存在することを理解する。	
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する		
	○		◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		70	30	0	0	100	
基礎的理解	①、②、③	50	30			80	
応用力(実践・専門・融合)	①、②、③	20				20	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲						0	
授業概要、方針、履修上の注意	講義の内容を統括的に理解できること。具体的には、それぞれのテーマにおいて、その概要を講義を聞いてない人が理解できるように正しく説明できれば、十分に達成水準に達しているといえる。中間・期末試験の他、知識の定着のため、小テストも実施する予定である。						

